中国での臓器収奪を調査する独立民衆法廷：証言者の陳述書：提出 ID 621P
– 曽錚 （ゼン・ジェン） (ジェニファー)

2018 年 10 月 23 日

関係者各位

私の名前は曽錚 （ゼン・ジェン）です。 ジェニファー・ゼンとして知られています。“Witnessing History: one women’s fight for freedom and Falun Gong（歴史の目撃者として:自由と法輪功のための一人の女性の戦い） (Allen & Unwin, 9781741144000, https://www.allenandunwin.com/browse/books/general- books/biography-autobiography/Witnessing-History-Jennifer-Zeng-translated-by-Sue- Wiles-9781741144000) の著者です。受賞したドキュメンタリー『フリー・チャイナ:信じる勇気』(http://freechina.ntdtv.org/homepage/)の主要登場人物です。オーストラリア市民ですが現在ワシントンでエポック・タイムズのジャーナリストとして働いています。(https://www.theepochtimes.com)

以下、証言いたします。

1. 私は中国出身です。北京大学で理学修士を習得しました。2001 年にオーストラリアに来て、2003 年に難民認定されました。
2. 1997 年に法輪功を始めました。法輪功への弾圧が始まってから 4 回逮捕され、2000 年には裁判を経ずに 1 年間の過酷な強制労働を言い渡されました。最初の逮捕は 1999 年 7 月 20 日でした。北京の中南海の陳情局の近くの通りを歩いている時でした。警官に止められ「法輪功の学習者か」と尋ねられたので「はい」と答えたら、即座に逮捕されバスに押し込まれました。バスは既に法輪功の学習者が詰め込まれていました。 2 度目の逮捕は、1999 年（口頭供述で訂正）12 月 26 日でした。法廷に歩いて向かっているところでした。4 人の法輪功学習者が裁判を聴講しようとしていました。前回同様、警官に止められ「法輪功の学習者か」と尋ねられたので「はい」と答えたら、即座に逮捕されました。3 度目の逮捕は、2000 年 2 月です。この時は警官が職場に来て私を連れ去りました。1 月に法輪功学習者の家での集まりに私が参加したという情報を警察が得たことが理由でした。4 度目の逮捕は、2000 年 4 月 13 日の朝 2 時でした。まだ自宅で寝ていました。理由を告げられずに警官に連行されました。1 週間後、インターネット警察がメールを傍受したために拘束されたことを看守所で知りました。メールの内容は私が義理の父母に宛てた手紙で、弾圧中もなぜ私が法輪功を放棄したくないかを説明したものでした。私自身はメールとしては送ってい

ません。現在まで誰がそのメールを送ったのかはわかっていません。このメールのために 1 年間、強制労働所に送還され、死ぬ寸前まで拷問を受けました。

3. 北京の崇文区看守所から北京市大興県の労働教養人員派遣所に送還される朝、別の場所に連れられ、医療検査を受けさせられました。およそ 20 名の法輪功学習者が同じ日に派遣所に送り込まれていました。皆、同じ検査を受けていました。一人ひとり、以前どんな病気を持っていたかなどの病歴を厳しく尋問されました。私は、法輪功を始める前に C 型肝炎にかかっていたと正直に答えました。
4. およそ 1 か月後、派遣所から北京の新安女子労働教養所に移送される前に、労働教養所の外にある病院にバスで連れて行かれ、レントゲン撮影を含むさらに細かい医療検査を受けました。
5. 1 〜2 ヶ月後のある日、警官がやってきて全ての囚人を廊下に並ばせました。就寝場から 60〜70 メートル離れた労働教養所内の医務室に連れて行かれました。採血され、護衛付きで戻されました。説明はありませんでしたが、とても奇妙だと思いました。労働教養所では私たちは動物や奴隷のように扱われ、警察も命令の理由を説明することはありませんでした。派遣所では、頭を上げて警察官の顔を見ることも許されませんでした。他の収容者と話をすることも許されませんでした。なぜ、私たちの健康を心配しているかのように、病院で血液検査やその他の医療検査が行われるのかわかりませんでした。
6. 血液検査の結果は知らされませんでした。その目的を訪ねる者もいませんでした。労働があまりにも過酷で、その日に割り当てられた生産に達して、いかに翌日まで生き延びるかということ以外、考える力を長い間失っていました。
7. 労働教養所の収容者は互いの連絡先を交換することは許されなかったので、釈放後に互いに連絡を取り合うことは不可能でした。収容所から誰かが消えたら、釈放され家に帰ったのだと思っていました。しかし実際に確認したわけではありません。釈放後、他の人々がどこに行ったのか探し当てることはできません。病院に連れて行かれ、合意なく臓器を収奪され、その過程で殺害されたのではないかと危惧しています。
8. 看守所に拘束されたとき、名前のない法輪功学習者がよく到着し、数日拘束されたあと、消えました。2000 年 5 月 11 日だけでも、20 名以上の法輪功学習者が送り込まれてきました。一人は D 3 という番号がついていました。私と同じ監房でした。12〜13 日後、強制給餌で亡くなりました。亡くなるまで名前を知りませんでした。45 歳で黒竜江省から来たことしかわかりませんでした。他の名前のない法輪功学習者がどうなったのかも全くわかりません。
9. 労働教養所にはおよそ 1000 人の収容者がいました。95％は法輪功の学習者でした。長時間の強制労働の後、非人間的な肉体的・精神的な拷問、屈辱を受けました。地面が 50℃の暑さの中で、しゃがまされ、その姿勢を保つように強要されました。15 時

間以上が最長でした。私の労働教養所での刑期を見直す権利を主張したことで、殴打され、床を引き摺り回され、失神するまで 2 本の電気棒で電気ショックを受けました。動かずに頭を下げて立つことを強要され、自分の足を毎日 16 時間見つめながら、屈辱的な労働教養所の規則を大声で何度も読み上げさせられました。私が続けられなくなると、警官か犯罪者の囚人に電気ショックを与えられるか、罵られるか、しゃがまされました。労働教養所に着いてただちに、法輪功を放棄するという声明文に署名するよう次々とプレッシャーが終わりなくかけられました。私が署名するためなら何をしても許される犯罪者の囚人が私を 24 時間監視しました。ほぼ毎日、法輪功に対する誹謗中傷や嘘を見たり聞いたりさせられました。毎回終わった後「思想報告書」警察に提出しなければなりませんでした。

10. 政府の扇動、反法輪功の宣伝のため、法輪功学習者は悪者にされ、疎外化されています。このため、家族からの理解も得られません。国家がコントロールするメディアで常に悪魔のように扱われ、虚言が発せられているため、現在の中国では、社会のいたるところに法輪功学習者に対する敵対心が存在しています。
11. これらの疑惑を調査した主要な代表者/専門家が証言する公式な公聴会を開かれることを強く要請します。ノーベル平和賞候補のデビッド・キルガー氏、デビッド・マタス氏、イーサン・ガットマン氏に依頼し、「法輪功迫害を追跡調査する国際組織」の研究者兼スポークスマンの王志遠医師の参加を検討してください。 私自身も進んで証言いたします。

曽錚 （ゼン・ジェン） (ジェニファー)